

過去の南海トラフ地震とその記録

684年11月29日(白鳳地震) ※南海・東南海・東海3連動型とされる建物の破壊、人畜の死傷多く、土佐の田畑12平方キロメートルが海となる。津波あり。

887年8月26日(仁和地震)
 五畿七道大いに震う。近海津波来襲し、死傷者多し。

1099年2月16日(康和地震)
 記述などなし。痕跡あり。

1361年8月3日(正平地震)
 津波被害甚大。香美郡田村(南国市)の下庄正奥寺に高潮上がる。

1605年2月3日(慶長地震) ※南海・東南海・東海3連動型
 地震い大津波あり。死者5000人に上り、崎の浜、甲浦、阿波穴喰で浸死者続出。

1707年10月28日(宝永地震) ※南海・東南海・東海3連動型
 有史時代最大の地震の潰家29000、死4900。津波は土佐にて20m余り。海辺の在家一所として残る方なし。
 高知では潮江、下知、江ノ口より、一宮、布師田、大津、介良、下田衣笠まで海となる。

1854年12月24日(安政南海地震) ※南海単独 前日に東南海東海地震有地震、大津波で被害甚し。土佐、紀伊、阿波などで死者3000。土佐湾沿いの赤岡以西はすべて災害被る。

1946年12月21日(昭和南海地震) ※南海単独
 震害は四国、九州、近畿、中国、中部地方におよび、大津波来襲して全国で1330人の死者が出た。
 高知は震度5で午前4時19分に発震、地震後6波の津波あり。
 県下の死者670、不明9、傷者1836、家倒壊4834。

東日本大震災から5年が過ぎました。そう遠くない時期に起こることが予想されている南海トラフ地震について、いま一度歴史を確認してみましよう。

上記のとおり、南海トラフ地震は過去に何度も起きてきている災害です。

起こる頻度に多少の幅はありますが100〜150年周期で起こるとされています。また、記述からわかる限りでは、津波が来襲し、被害も出ていることがわかります。

このように、過去に幾度と地震が起こっており、今後も必ず起こることが予想される南海トラフ地震。残念ながらこの発生を防ぐことは不可能です。

しかし、私たちは過去の経験から学び、同じような被害を受けないように準備することが重要であると考えます。

そして、地震災害を防ぐことはできませんが、被害を減らす「減災」は行うことができます。

黒潮町では、「減災」に向けて今年度も、木造住宅耐震に係る補助事業、家具転倒防止対策および危険なブロック塀撤去などに係る補助事業、避難道や避難場所の整備、地区防災計画および避難所運営マニュアルなどの作成支援、自主防災組織への資機材整備補助事業など、関係機関と連携し、さまざまな対策を継続していきます。

黒潮消防署 防火・防災標語表彰式

3月3日、黒潮消防署が実施している「第22回黒潮消防署防火・防災標語」の表彰式が行われました。

この標語は、黒潮町内の小学校4年生から6年生を対象に年に1度募集をしています。

最優秀作品は、上川口小学校6年生の相牟田真珠さんの「生きたいと 思う気持ちで 備えあり」に決定しました。

この作品は黒潮消防署前に掲げ、防火・防災啓発に活用していきます。



お問い合わせ

【本庁】情報防災課 消防防災係

☎43-2188(課直通)

【佐賀支所】地域住民課 総合窓口第1係

☎55-3113(直通)